

再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (中国・百万庄団地 1/2000)

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER
2012
VOL.088



図 1. 百万庄団地（計画案）

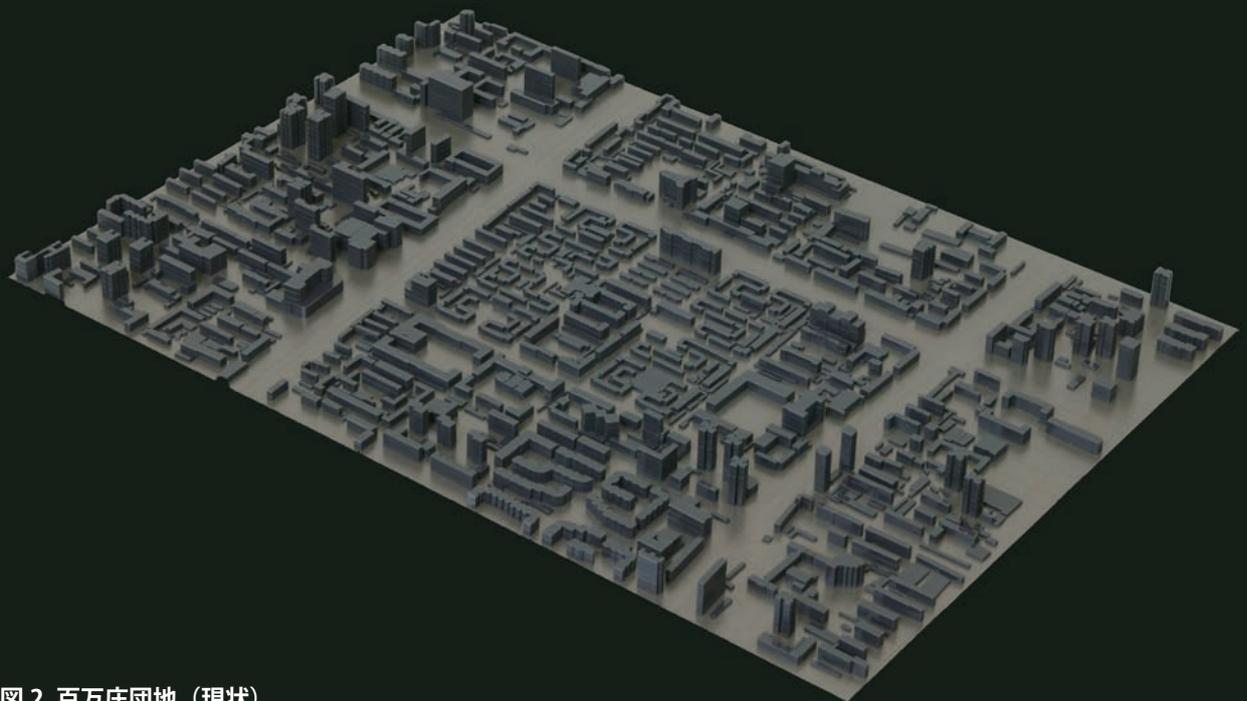


図 2. 百万庄団地（現状）

空間比較模型の制作

アジアの社会主義体制下に建設された団地は、居住者による増築や改築などの自力更新が見られ、当初の計画案とは異なった空間が出来上がっている場合が多い。社会主義体制下の団地建設は、旧ソ連の計画理念の流れを汲んでいる。計画案と現在の団地空間の相違を端的に現すものとし、団地およびその

周辺の模型を作製した。様々な団地を同一の縮尺で模型とすることで、空間の特徴と現状を容易に把握できるようになった。

本稿では、1/2000 の縮尺で制作した中国・北京の百万庄団地の計画案と現状の模型について、その空間変化について分析を行うものである。

1. 百万庄団地の特徴

百万庄団地は、1950年代に建設された囲み型配置の団地である。囲み型に配置された住棟群によって、街路に対しての配慮がされている。また、団地の中心には学校と商店が計画されており、近隣住区論と旧ソ連のスーパーブロック計画を元にした中国流の「居住小区理論」が採用されていた。

しかし百万庄団地の現状は、計画

案とは異なり、計画には無かった建物が建てられたり、オープンスペースに滲みだした仮設店舗が作られたりしている。また、アジアの都市で散見される例として、団地建設時の工事労働者の飯場が工事終了後も撤去されず、そのまま残ることがある。百万庄団地でも飯場がそのまま残り、現在でも人が住み着いている。

これは、団地が建設された当初から計画案に無かった要素（建物）が

建てられ、残っており、計画通りの空間が作られたことが無いことを示している。また、ヨーロッパの団地の様に再生事業は行われていない。そのため百万庄団地の模型を制作するにあたり、過去の団地空間ではなく、「計画案」の空間を制作することとし、団地の敷地以外の部分は制作対象外とした。一方、現状は2012年時点の模型とし、A1パネル1枚のサイズ、縮尺1/2000で制作した。

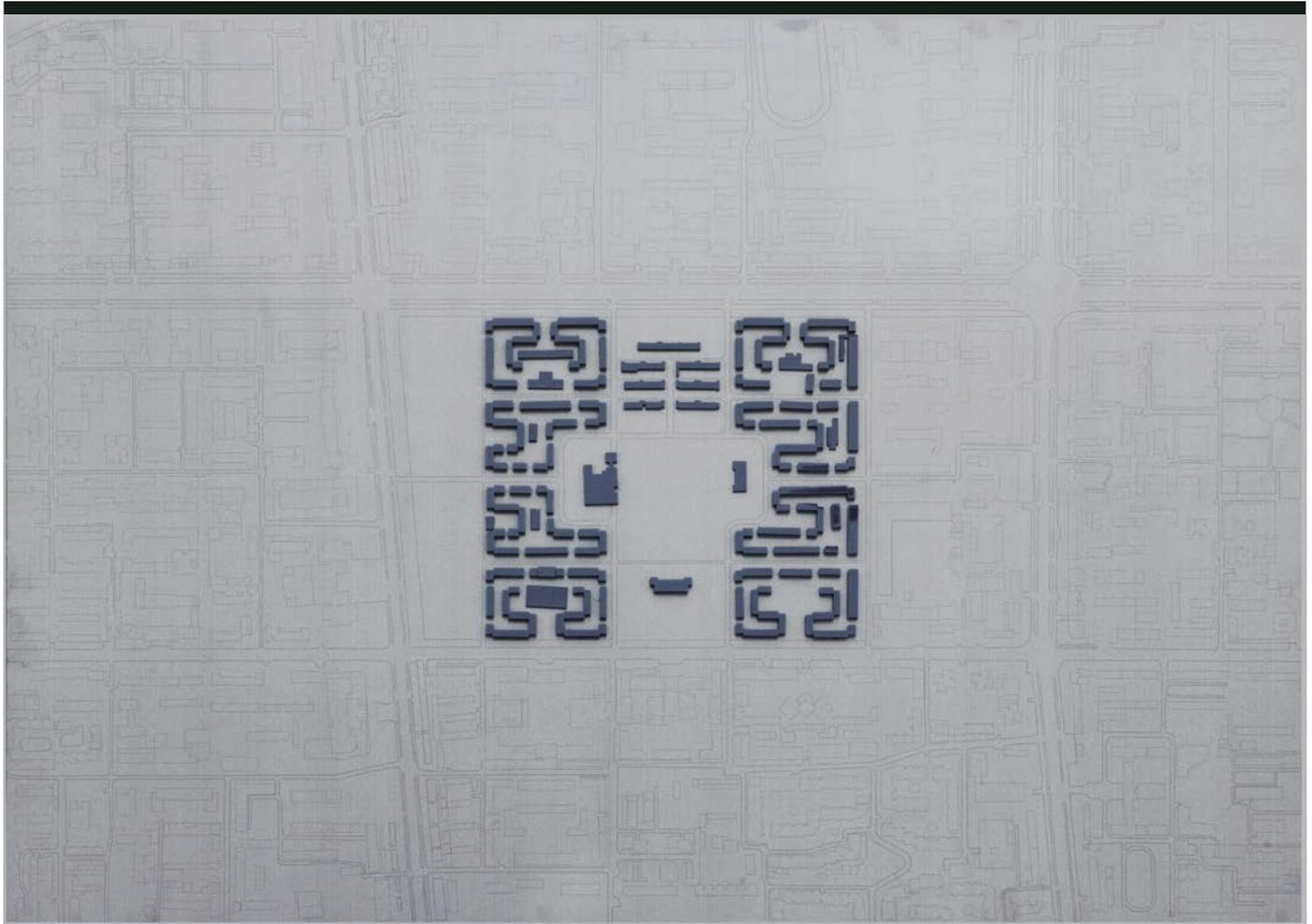


図3. 百万庄団地全景（計画案）

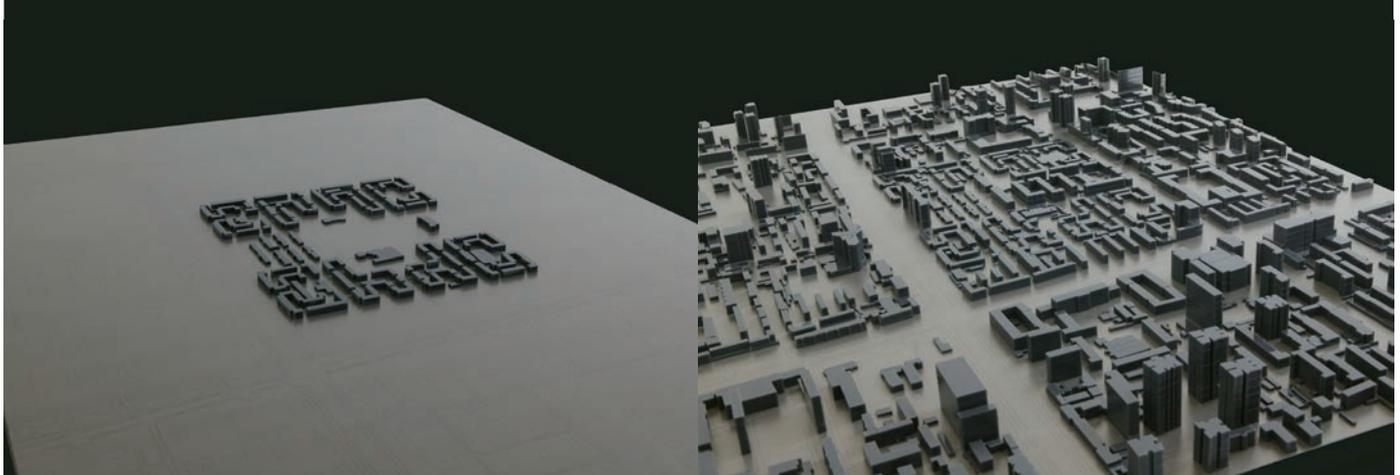


図5. 北西からのアングル（計画案）

図6. 北西からのアングル（現状：2012年）

2. 百万庄団地の空間変化

2-1. 真上からの比較

百万庄団地の計画案と現状の空間の違いは、大規模な変化では無く、小さいスケールの変化となっている。

真上から見た計画案(図3)では、居住小区理論が実践され、都市道路により団地敷地が明確に規定され、住棟や学校等の施設が囲み型で配置されている様子が見て取れる。中心部には大きめのオープンスペース(公

園用地)が取られ、団地居住者の利用スペースとなっている。このように、団地が完結したまちを形成している様子が把握できる。

一方現状(図4)では、オープンスペースであったはずの場所に建物が建設され、なおかつ当初の住棟よりも階数も高く大きなヴォリュームとなっている様子が見て取れる。その一方で、小さなスケールの建物の建っており、工事労働者の飯場が残っ

ている様子が把握できる。

現状の模型(図4)から把握できる団地周辺では、人口の増加に伴う低層の住棟が作られてきた後に、近年の経済成長による高層建築が多く建てられている。

2-2. 俯瞰からの比較

ほぼ同じアングルから撮影した写真をセットにして図5～図12に示す。百万庄団地では、計画案に無かった建物がオープンスペースに建てら



図4. 百万庄団地全景(現状: 2012年)

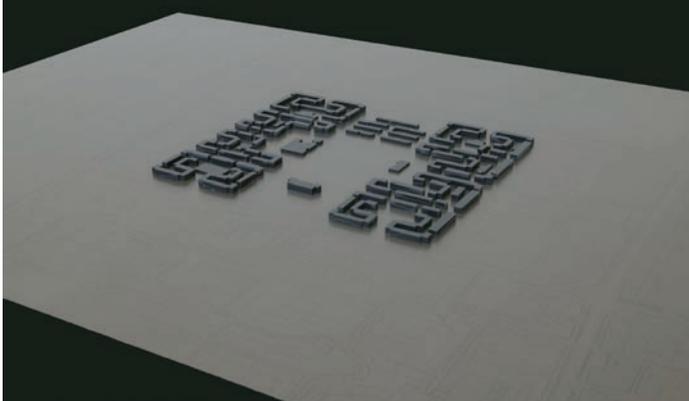


図7. 南東からのアングル(計画案)

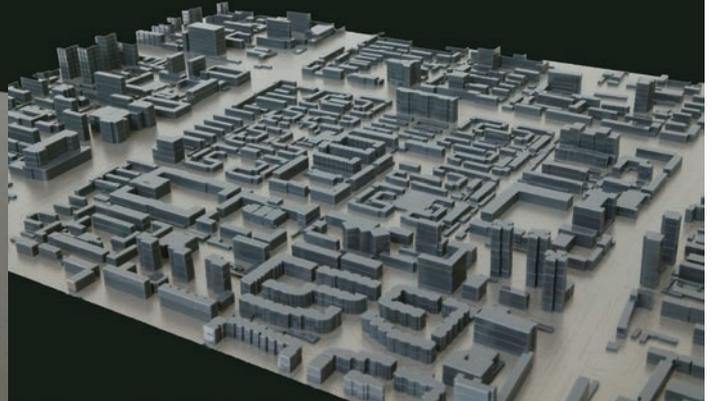


図8. 南東からのアングル(現状: 2012年)

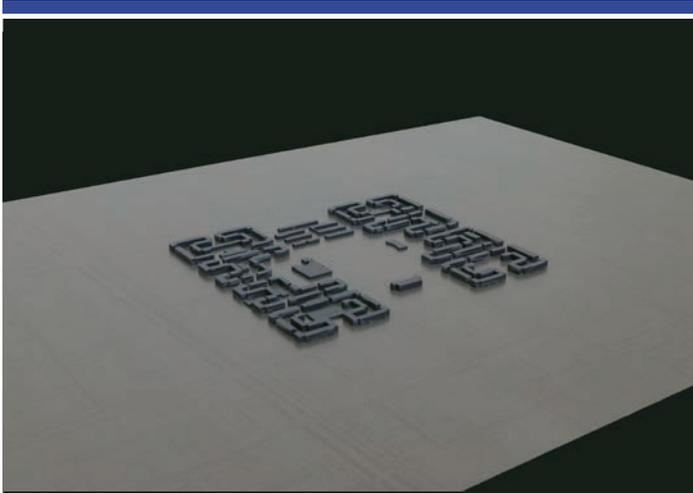


図 9. 南西からのアングル (計画案)



図 10. 南西からのアングル (現状：2012年)

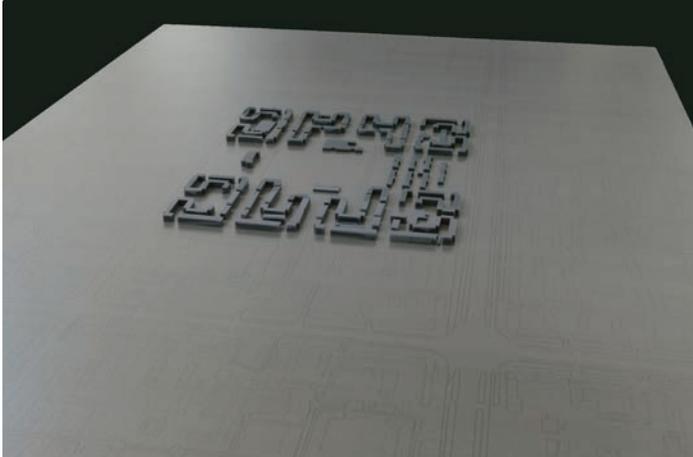


図 11. 西からのアングル (計画案)



図 12. 西からのアングル (現状：2012年)



図 13. シュノーケルカメラの低いアングル (計画案)

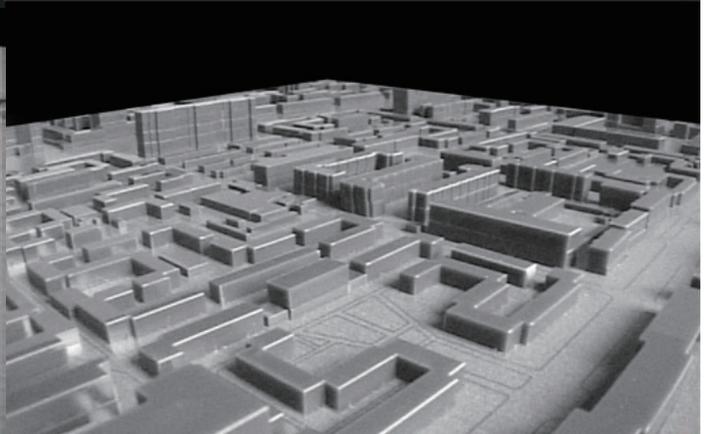


図 14. シュノーケルカメラの低いアングル (現状：2012年)

れ、また高層の建物もできている様子が見て取れる。これにより、団地の密度が大きく上がっていることが把握できる。

2-3. 低アングルからの比較

シュノーケルカメラを用いた低いアングルの写真を図 13、図 14 に示す。計画案 (図 13) では、オープン

スペースと高さの揃った建物が並ぶ様子が分かり、現状 (図 14) は計画案に無かった高層の建物が増えている様子が見て取れる。

関連リーフレット：004、025、057

『再生事例に見る従前従後の空間比較模型
(中国・百万庄団地 1/2000)』

執筆：岡 絵理子 (関西大学 准教授)
倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)
宮崎 篤徳 (" ")
増田 和起 (関西大学大学院 博士後期課程)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

発行：2012年9月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>